

2010

2011.02.15

《ニクソン・イン・チャイナ》でプリンシパルを務めるバレエダンサー “瀬河寛司さん” 特別インタビュー



© Ken Howard/Metropolitan Opera



© Ken Howard/Metropolitan Opera

Q.NYではどんな活動をされているのですか？

フリーのダンサー・振付家として活動しています。ダンサーとしては次期アルビンエイリー舞踊団の振付家ロバート・バトル氏、そして本作の振付家でもあるマーク・モリス氏の作品を中心に公演活動をしてきました。振付家としては全米各地で活動し、最近ではアメリカンバレエシアター付属学校の為に振付をした作品が、F・ケネディ大統領の就任50周年記念祭のダンスに選ばれ、ケネディセンターにて今年1月に発表しました。また、私が主宰する『ダンスプロジェクトニューヨーク』

(DPNY)の代表として、次世代の日本人ダンサー達の育成と手助けに努めています。

※DPNYの詳細に関してはこちら

<http://www.bway.name/dpny/performance.htm>

Q.《ニクソン・イン・チャイナ》への出演チャンスはどのように掴んだのですか？

振付家のマークさんからご招待を受けました。ただメトロポリタン・オペラ (MET) はすごく厳しいところで、皆きちんとオーディションを受けなければならないので、私も受けて合格しました。他の日本人のダンサー達は単身でMETに挑戦し、勝ち抜きました。これはすごいことです。

Q.オペラへの出演は初めですか？

METでは、06年《始皇帝》と07年《オルフェオとエウリディーチェ》に出演しました。《始皇帝》は中国の始皇帝をテーマにしたオペラで当時は話題になりました。どちらもライブビューイングされていて、特に《オルフェオとエウリディーチェ》は、私も多くの場面で踊っています。



J.アダムズ氏と瀬河さん、山崎さん
(初日公演後のパーティーにて)



後中央ピンクのマフラー・M.モリス氏、左端：鶴原谷さん、
左後方：木村さん、中央：山崎さん・瀬河さん、右端：菊池さん

く、本当にすごい方です。リハーサルの時からものすごく厳しい人で、日本で言う“鬼”のようです。ただ同時にとても優しい人で、しゃべるのも大好きなので、彼の回りにいるといつも笑いが絶えません。また日本文化が大好きで、彼のオフィスは障子で出来たドアにお風呂が設置されているほどです（笑）

Q. 今回の稽古で大変なこと、楽しいことは？

○大変なこと

音楽を理解することです。J.アダムズの奥が深く壮大で美しい音楽は、リズム的にも複雑でもあります。マークさんの振付は音楽にきちんと合わせた踊りで、次々にテンポが変化するので、普段のシンプルなリズムよりも挑戦的なことです。また舞台上で生のオーケストラと合わせる際には、毎回テンポが違ったりと微妙に変化していくので、少しでも気を抜くともうミスになってしまいます。そのため常に音楽に対する意識を高く持ち、また順応性を持つことを努めています。

○楽しいこと

ダンサー達やすべてのスタッフや皆さんがとてもいい方達ばかりなので、いつも現場にいい気が流れています。また指揮のJ.アダムズさんはすごく温かい人で、常に最初から参加し、ダンサー達にねぎらいの言葉をかけてくれます。演出のP.セラーズさんも毎日「素晴らしい踊りをどうも有り難う！」とダンサー達を抱きしめてくれて、その上でストーリーの感情の流れをとっても大切に彼の演出意図を的確に伝えてくれます。

Q. 今後の目標は？

今後も私自身でも表現しつつ、指導にも力を注いでいきたいですね。教育者として教えていく事もすごく好きだし、舞踊家として踊るということは、人とシェアして初めて意味があると思います。踊るにしても、振り付けるにしてもダンスを通して若い人たちのインスピレーションを与えて、一緒にシェアしていければと思います。

【今後の予定】

＊春にマーク・モリスダンスグループのカリフォルニアツアーに参加。

＊ジェシカ・ラングダンスプロジェクトの新作にて、NY在住アーティスト丸山晋一氏とのコラボレーション映像撮影に出演。

＊さらにはさまざまなバレエスクールや芸術高等学校への振付と指導も行う予定。

◆日本のオペラそしてダンスファンの方にメッセージを！

今回ライブビューイングで世界46カ国に同時配信されるので、出演者やスタッフも含め、気合が入っています。NYまで来ていただけない方も観ていただけるので、NYから日本に伝えるという気持ちでやっています。METならではの壮大なスケールでドラマチックなオペ

Q. オペラの中で踊るバレエと音役の公演のバレエとどのように違いますか。

オペラの中でのバレエは、場面によってスタイルが様々ですし、もちろんストーリーを歌以外で助けるという役割ですので、バレエが中心ではありません。ただ、マークさん振付のオペラは、ダンサーを存分に使ったものが多いです。また、通常は突然バレエの場面にダンサーが登場して歌手の背後で踊るという形が多いですが、今回の作品ではダンサー連自身が物語において重要なキャラクターとなり、踊りを通してストーリーを展開していく大変魅力ある設定となっています。

Q. 今回の役どころは？

私の役は中国軍人Hung Chang-Ching という若者です。

初めは劇中劇『紅色娘子軍』のバレエの中で虐げられている村娘Ching Hua（同じ日本人ダンサーの山崎晴野さん）を救うダンサーとして登場します。そしてそのダンサーを演じる軍人として徐々にオペラの中の登場人物になっていきます。彼はダンサーとして村娘を助ける役ですが、演じている中で毛沢東政権に疑問を抱くようになり、独裁国家と自由運動の狭間で葛藤していきます。私は今回、踊っているよりも演技している時間のほうが多いかもしれません。

＊『紅色娘子軍』（こうしよくじょうしゅん）：毛沢東夫人の江清女史が直接指導にあたり創り上げた中華人民共和国の革命歌劇。

Q. 今回の出演シーンで特に注目して観ていただきたいところは？

ダンスでは2幕にある、虐待される村娘を守る為に戦う女性と悪者の男性との戦いの場面です。他の日本人ダンサーが出ていて、アクロバットも多く取り入れられたとてもエキサイティングな場面です。そしてニコソンと毛沢東の両夫妻の心情を反映した美しいバドゥ（私と山崎さん）を踊る第3幕は、現実で起きた事件の事実しか伝わっていない部分のそれぞれの人物の感情を表現したいという演出家P.セラーズの考えが反映されています。歌では、初演からニコソンを演じられているJ・マッダレーナさんの、年齢が加わった分さらに素晴らしい歌声と毛沢東の妻を演じられるK・キムさんの小さな身体からはとても想像つかない迫力ある歌声は必聴です。また、飛行機の場面や毛沢東の大きな顔の絵画など、巨大なセットにも注目して下さい。動物園の場面では、大きな象まで登場します！

＊バドゥとは・・・男女2人によって展開される踊り。バレエの中で最大の見せ場とされることが多い。

Q. 振付家マーク・モリス氏の印象は？

大げさではなく100年に1人の逸材といって過言ではないほどの天才的な方です。振付や音楽のことはもちろん、ダンスを含めた様々な分野で、世界で何が起きているかを察知し、それを自分の中に取り込んでい

ラを、最高のプロダクションに素晴らしい歌手達、そしてNYで活躍する日本人ダンサー達によってお届けしますので、是非期待してご覧になって下さい！ENJOY!!

【出演する日本人ダンサー プロフィール】 ※=瀬川さんコメント

○瀬河 寛司（せがわ かんじ）

神奈川県出身。母、亜甲絵里香のもとでモダンダンスを始め、ユニークバレエシアターにてクラシックバレエを堀内完、堀内充に師事。97年文化庁派遣芸術家在外研修員に選出され、渡米。02年-10年まで振付家ロバート・バトルのバトルワークスダンスカンパニーに所属。04年振付家マーク・モリス氏との仕事を始め、現在に至るまで毎年数多くのモリス版プロダクションに出演している。指導者としても活躍し、全米各地の教育機関に招待され指導、振付を行っている。09年ユースアメリカグランプリ、フィラデルフィア予選コンテンポラリー部門にて振付者賞を受賞。アメリカ・日本にてワークショップを開催し、次世代のダンサー達への育成にも情熱を注いでいる。

www.dpnv.org

○山崎 晴野（やまざき はるの）

NY市出身。幼少よりバレエを始め、スクールオブアメリカンバレエ(SAB)、セントラルペンシルベニアユースバレエ、グリニッジバレエアカデミーで学ぶ。子役ダンサーとしてアメリカンバレエシアターで活躍。コンフィグレーションダンスシアター、アメリカンレパートリーバレエ団で踊り、古典から現代作品まで多くのレパートリーを踊った。

※しっかりとしたトレーニングで身体がとても強いのでパートナーングをするのもとても楽。初めて一緒に踊るとは思えないほど意気が合い、どんなハプニング、ミスでも一緒に乗り切れると自信を持って言える最高のパートナー。

○木村 佳奈（きむら かな）

広島県出身。4歳よりバレエを始め石原アカデミー在学中に浅川高子(元グラハム舞踊団プリンシパル)にグラハムテクニックの指導を受ける。高校卒業後渡米しNYのジュリアード学院(BFA)にて様々なダンステクニックを学ぶ。卒業後、振付家Wally Cardonaと活動開始今に至る。

※モダンとバレエの両テクニックをしっかりと持つ。そして古風と現代の両色を備え、かつ日本人ならではの繊細な美しさを持ったダンサー。

○鶴原谷 圭（つるはらたに けい）

大阪府出身。18歳から大阪のフリーウェイダンススタジオで谷寿美に師事。グレンデールコミュニティカレッジのダンス/振付科を終了。またNYのメリーマウントマンハッタン大学でもダンス科に修学。今回のMET出演以外にも、ブロードウェイトライアウト公演トリップオブラブ、メキシコのコンテンポラリーカンパニーTania Perez Salas、男性コメディーバレエ団グランディーバ（東南アジアツアー・東京公演）、劇団四季のアイダなど、世界各地を飛び回っている。

※豊かな表現力に確かな音楽性を持ったダンサー。柔軟でしなやかな動きをみせ、甘い笑顔と優しい人柄に他のダンサーからも人気がある。

○菊池 健太郎（きくち けんたろう）

東京都出身。体操種目の競技エアロビックで全日本3度の優勝。08年の世界大会4位で競技を引退。その後、ダンサーに転向、09年6月にNYに渡米。NYではファイナンスヤング氏にバレエを師事。様々なダンス教室でバレエ、モダン、コンテンポラリー、ジャズを学ぶ。

※特殊なバックグラウンドを活かした身体力抜群の踊りを本作でも披露する。遅くに始めたダンスもものすごいスピードで習得中、これからはとても楽しみ。

